

2019年度 上田市立本原小学校 自己評価シート

最終報告 3月

| 学校教育目標   |           | めざす子ども像                                  | 総合評価   |   |
|--|-----------|--|--|---|
| <p>なかよく<br/>たくましく<br/>かんがえて</p> <p>【2019年度の<br/>基本理念】</p> <p>学ぶ喜びを感じ、<br/>明日を楽しみに来<br/>る学校</p> |           | ○地域を愛し、自分が好きで、人にやさしく思いやりのある子ども           | ○本原小学校は今年度、130周年という記念すべき年であった。130周年記念事業では地域の皆様や保護者の皆様、学校が一体となり様々な活動や学習を行った。それらの活動や学習を通して歴史を感じ、人とのあたたかさを感じ、共に活動することの充実感を得ることができた。 |   |
|  |           | ○堂々と挨拶や考えを言えたり、自分に自信を持って取り組んだりできる前向きな子ども | ○日々の授業の中では、「かんがえるくん」や「つたえちゃん」を有効に使い、1時間の中に考える場面や伝える場面を位置づけるようにした。その結果、自分に自信を持ち、自ら学習に取り組む姿が多く見られた。                                |   |
|  |           | ○粘り強く考えられる学習意欲の高い子ども                     | ○対話的協同的な学びができるような教材や授業構造の工夫を通して、意欲を高め、粘り強く学習できる子どもが育ってきている。  |   |
|  |           | 本年度の重点目標                                 | 評価   |   |
|  | もっとかんがえる  |  | B  | <p>成果と課題</p> <p>・「一人→ペアやグループ→全体」という流れで授業の中<br/>にしっかりと考える場面をいれて授業構成をし、考える力<br/>が高まった。<br/>・考えて発表して終わることが多かったため、発表してさ<br/>らに吟味する時間をつくりたい。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・教材となる人、もの、事に意識を向けさせ考えるようにする。<br/>・かんがえるくんの提示の仕方を工夫したり発表を吟味する時<br/>間を確保したりする。</p> |
|  | 心をこめてつたえる |  | B  | <p>・考えたことを伝える、音楽会や記念式典等で表現する<br/>など、多くの子どもに「つたえる」力がついてきている。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・大勢の前でも伝えることのできる力をつけていけるよう、授業<br/>や行事中でその場に立つ機会をつくっていく。</p>   |
|  | 楽しむ@130周年 |  | A  | <p>・1年間、見通しを持って取り組むことができ、本原小学校<br/>に関わるすべての皆様と楽しみ、充実感を得ることがで<br/>きた。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・より地域と共に歩む学校として、組織の充実を図っていく。</p>   |

| 分野   | 重点活動                     | 学校評価の中核的観点  | 評価 | 改善策・向上策   |
|------|--------------------------|---|----|---|
| なかよく | ○一人一人の子どもを大切に学級づくり・学校づくり | ○「子ども同士」、「子どもと教師」の関係づくりを良くするための活動ができたか。<br>(学級におけるルールづくり・あたたかい声がけやかかわり・ことば遣い・休み時間の過ごし方) | B  | <p>・授業や朝の会、帰りの会などで友と関わる場面を大切に<br/>に取り入れ、お互いの良さを伝え合うことで笑顔が生まれ<br/>た。<br/>・子ども同士のトラブルや不安をこまめに聞き取り、一緒<br/>に考える機会を取った。少しずつ子ども自身でも解決して<br/>いけるようサポートしていきたい。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・言葉遣いを常に気をつけられるように視覚支援をしたり授業<br/>で考え合ったりする。また、子どもたちの表情やしぐさの変化を<br/>敏感にとらえ指導していく。<br/>・子ども同士がふざけている中でも、表情やしぐさの変化(教師<br/>が感じた違和感)を捉えて子どもに返していく。大人側の人権<br/>感覚を磨く。</p> |
|      |                          | ○一人一人の子に居場所があり、学級での生活が楽しいと思える場を創造できたか。<br>(生活全般・教科・総合的な学習の時間の授業)                        | B  | <p>・一人一人の特徴を把握し、良い姿を認め、広め、居場<br/>所がある学級づくりのために、個が生きる教材を工夫し<br/>た。また、生活科や総合的な学習の時間の充実を図つ<br/>た。<br/>・友達関係の固定化、充実感を味わう学級の活動の充実<br/>など指導のあり方の工夫が必要。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・子どもたち自身がやってみよう活動を実現できるよう単元構<br/>成を工夫したり、相手の気持ち考える授業の充実を図ったりす<br/>る。また、教科の中でも、個々を認め合える活動を意識して取<br/>り入れていきたい。</p>   |
|      |                          | ○全校が共に充実感を得られる学習や活動ができたか。<br>(運動会や音楽会などの行事・児童会活動・130周年記念事業)                             | B  | <p>・今年度は130周年であったため、全校が意識しながら学<br/>習や活動を考えることで、みんなで創り上げる喜びを感じ<br/>ることができた。<br/>・体力の増進や歌う楽しさなど行事に向けて学習してきた<br/>ことを日々の学校生活でも継続していけるようにしたい。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・子どもたち自身がめあてをしっかりと持てるように提示や進め<br/>方を工夫する。<br/>・これから地域や学校を大切に思う気持ちを育てていけるよ<br/>う、行事や児童会活動等で意識させていきたい。</p>   |
| 教    |                          | ○堂々と挨拶や発表ができるようになるための工夫ができたか。<br>(朝や休み時間の挨拶・行事等における発表・授業における発言)                         | B  | <p>・行事や授業で全体の前で発表する機会を作ることがで<br/>き、はっきりと話したり、発表の仕方を工夫したりするこ<br/>とのできる子どもが多くなってきた。<br/>・挨拶については個人差がある。明るく挨拶ができる子<br/>どもを多くしていきたい。</p> <p>改善策・向上策</p> <p>・相手を意識して話す機会を増やしたり、考えを伝える場を工<br/>夫したりする。<br/>・教師が率先して挨拶をして、挨拶の良さを広げていくようにす<br/>る。</p>  |

|  |       |  |   |   |   |   |
|--|-------|--|---|---|---|---|
| 育<br>活<br>動  | たくましく | ○様々な教育活動・体験を通して、元気な身体と心づくり                 | ○健康な身体づくり・安全な生活環境づくりの工夫ができたか。<br>(体育授業・運動集会の充実・校庭や体育館使用における環境整備)                    | B   | ・体育の授業において子どもたちとルールを考えゲーム運動をしたり、目標を決めて大縄跳びをしたりすることで、体育の授業が好きな子どもが多い。<br>・授業以外で、外で遊ぶ子どもが決まっていて全体として4分の1程度である。                            | ・子どもたちが充実感を得られるような授業をより工夫していく。<br>・学級で外で遊ぶ機会を確保したり、運動集会などで運動遊びを紹介したりしていく。                                 |
|  |       |  | ○自己有用感を育む取り組みができたか。<br>(授業・学級活動・児童会活動)  | B   | ・「できる」「わかる」ことを実感し、意欲を高める子どもが多く見られた。<br>・子どもたちの自己有用感を高めていくための支援のあり方を工夫していきたい。  | ・様々な子どもが主役になれるような授業、活動を工夫していく。<br>・QU検査や児童アンケートの考察をいかす研修の充実を図る。   |
|  | かんがえて | すべての(S)子どもの(K)学びが(M)充実する授業づくり<br>(SKM充実授業) | ○もの・こと・人に対する考えを深めていくために「もっとかんがえる」を大切に<br>にした授業の工夫ができたか。<br>(学習課題・教材・授業構成のしかたなど)     | B   | ・教師がすべての道筋を示すのではなく、子どもたちで言葉をつくらたり個別にヒントを出したりして考える時間を確保した。そのため、自分たちで考えようとする姿が増えてきた。<br>・グループやペアで学習する場を設定はしたが、発表に終わり、考えを深めることができないこともあった。 | ・じっくり考えるための支援や話し合いの深め方は、今後授業研究をすることで模索し試していきたい。<br>・答え方、根拠の書き方などを工夫していく。                                  |
|  |       |  | ○対話的・協同的な「心をこめてつたえる」ことを大切に、一人一人が喜びのある授業となる工夫ができたか。<br>(授業構成のしかた・子どもの思いをつなげる支援・評価など) | B   | ・ペア、グループ活動を教科学習の中に意図的に設けたり、子どもたちの発言を全体に伝えたりする支援をすることで、自分たちで工夫したり話し合ったりすることが増えてきている。<br>・ペアやグループで話し合いをした後、全体で話し合う際、共有化し充実感を得られる支援は課題である。 | ・子どもたちの意見の中で、違いを大切にしたらえ方の良さを紹介し、深めていく支援を考える。<br>・タブレットやパソコンを有効に使って、さらに考えを共有化できる場面を考えていく。                  |
|  |       |  | ○すべての子どもの学びを充実させるためのユニバーサルデザイン化の構築に向けた工夫ができたか。(教室環境・教材の工夫・授業における工夫)                 | B   | ・デジタル教科書や学習カードを工夫するなど、視覚的に分かりやすくなり、板書の仕方を工夫したりしてUD化を進めた。<br>・その子どもにあった提示の仕方については今後も工夫が必要である。  | ・TTによる学習における役割の工夫や打合せを行い、その子どもにあった支援を考えていく。<br>・タブレットやTVの有効な利用の仕方を研究する。                                   |
|  | 学校運営  | 地域との連携                                     | PTAやボランティアとの連携を通じた信頼関係の構築   | ○地域で育まれた自然、地域の人・施設・行事などと関わり、地域に根ざした学びを深めることができたか。 | B   | ・原つ子応援団(地域ボランティア)の方々に多く授業支援をいただき、子どもたちの学びを深めることができた。<br>・体験したことをより深め、自分たちから地域へ行くような学習へ発展させることができない部分もあった。 |
| ○130周年記念事業の準備・運営を共に進め、楽しみ、盛り上がることができたか。                                    |       |  |   | A   | ・クラスの子ども、保護者、地域の皆様と活動を通して一体感を感じることができた。   | ・140周年記念事業に向けて、記録を残していく。<br>・来年度以降も、クラスの子ども、保護者、地域の皆様と共に活動を工夫していく。  |
| ○学校・学年・学級だより、安心安全メール、ホームページでの情報発信や連絡帳、電話などで保護者への連絡・学校内外の相談など、丁寧に行うことができたか。 |       |  |   | B   | ・学年だよりなどで子どもたちの様子を分かりやすく伝えることができた。<br>・連絡帳や電話などでの連絡や相談は、できるだけその日のうちに行うようになってきた。   | ・係分担を明確にしてより正確に、迅速に発信、連絡、相談ができるようにしていく。   |

評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった